別記様式第５号

評価事業完了報告書

教育庁施設整備課
令和８年１０月　作成

※評価書を添付

事　　業　　名	宮城第一高等学校校舎等改築事業
計画評価年月日	平成２９年１１月１３日

１　委員会答申（付帯意見含む）への対応状況

委員会答申	対応状況
【答申】 １　進学拠点校の特色を活かしつつ、学習効果の一層の向上、さらには生徒募集の際の強みの発信につながるよう、共学校として魅力ある学習環境の整備に努めること。	【評価結果の反映状況】 １　進学拠点校の特色を活かしつつ、学習効果の一層の向上が図られる施設整備を行い、共学校として魅力ある学習環境の整備に努めていく。 【その後の実施状況】 １　単位制や探究活動、少人数・習熟度別授業に対応する「秋桜ラボ」や、自主学習・協働学習の場となる「秋桜ラウンジ」等を整備したことにより、自立的な学習や探究活動を促進する環境を充実させ、本校独自の教育カリキュラムに対応した多様な学習環境を確保した。また、オープンスペースも自習や協働学習に活用されることで、学習意欲の向上や進学拠点校としての教育環境の充実につなげた。さらに、適正な便器数等を確保したトイレや、プライバシーに配慮した更衣室を整備し、共学校として快適で安心な学校生活を送れる環境を確保した。これらの充実した教育環境と学校独自のカリキュラムの魅力を、オープンキャンパスやWebサイト等を通じて発信し、生徒募集時の強みとして打ち出した。
【答申】 ２　工事期間中は、生徒等の安全確保及び学習環境の維持に配慮すること。	【評価結果の反映状況】 ２　施工に当たっては、施工範囲と生徒が日常的に活動する範囲とを明確に区分して生徒等の安全を確保する。また、日常の学習や学校行事も含めて学校の教育活動に支障がないように、学校側と十分に調整する。 【その後の実施状況】 ２　工事の実施に当たっては、計画に基づき施工エリアと生徒の日常的な動線・活動範囲を仮囲い等で明確に区分するとともに、工事車両の進入・通

	行時には誘導員を適切に配置し、生徒や歩行者の安全確保を徹底した。また、学校側と密に連絡・調整を行い、定期考査や各種行事の期間中には騒音・振動を伴う作業の自粛や休工措置を講じるなど、教育活動に支障が生じないよう最大限配慮した施工に努めた。

2　事業実施状況

計画評価時のスケジュール	実　　際
平成２９年度：大規模事業評価 平成３０年度：プロポーザル方式による設計事業者選定 平成３０年度～令和２年度 ：基本・実施設計、地質調査等 令和元年度　：仮設校舎設計・工事 令和２年度　：校舎解体工事 令和３年度～令和５年度 ：校舎等改築工事 供用開始予定：令和６年４月 令和６年度　：外構・グラウンド整備工事 仮設校舎・屋内運動場解体工事	平成２９年度：大規模事業評価 平成３０年度：プロポーザル方式による設計事業者選定 平成３０年度～令和２年度 ：基本・実施設計、地質調査等 ：仮設設計 令和２年度　：仮設校舎工事 令和２年度～令和３年度 ：校舎解体工事 令和３年度～令和５年度 ：校舎等改築工事 供用開始　　：令和６年１月 令和６年度～令和７年度 ：外構・グラウンド整備工事 仮設校舎・屋内運動場解体工事
遅延した場合その理由・原因	
校舎の改築は予定より早く完了したものの、仮設校舎の解体工事は、定期考査や学校行事への影響を避けるため、学校側と調整を行った結果、当初の見込みより３か月遅延が生じた。解体工事の遅延に伴い、後続の外構・グラウンド整備工事も３か月後ろ倒しとなり、全体の完成が令和７年度となったもの。	

3　事業実施の効果

計画評価の内容	効果の発現状況
○　改築により施設強度の向上、バリアフリー化等が推進され、生徒・教職員等の安全・安心が確保される。	○　改築により、最新の耐震基準に適合した安全性の高い施設とし、災害時における生徒・教職員等の安全確保を図った。また、段差のないフラットな構造、エレベーターや多目的トイレの整備などのバリアフリー化を推進し、車いす利用者を始めとする多様な生徒や来校者が支障なく安全・快適に利用できるユニバーサルデザインとした。
○　当該校は平成２０年度から単位制を導入し、習熟度別授業・少人数授業を展開するなど独自の取組を行っている。この取組に	○　新校舎整備にあたり、単位制や探究活動の推進、少人数・習熟度別授業に柔軟に対応可能な「秋桜ラボ」を整備したほか、各階に「秋桜ラ

対応した施設を整備することにより学校の魅力が高まり、生徒募集の強みがさらに発揮され、進学拠点校としての位置付けがこれまで以上に強化されることが期待される。	ウンジ」など、自主学習や協働学習に対応する空間を配置したことにより、生徒の自立的な学習や探究活動を行うための環境を充実し、本校独自の教育カリキュラムに対応した多様な学習環境を確保した。こうした教育環境の整備は、学校の魅力の一つとなっており、進学拠点校としての強化につながっている。
○　改築による新しい施設設備が整備されることにより、学校としての魅力や生徒の学習意欲の向上につながる。	○　新校舎の完成により、開放的で快適な学習環境が整い、学習メディアコーナーや各棟をつなぐオープンスペース等を設けたことにより、自習や協働学習、探究活動の場として活用され、学校としての魅力向上や生徒の学習意欲の向上につながっている。
○　共学校としての施設環境の改善により、男女いずれの生徒にも魅力的な学習環境が整備されることで、生徒募集時の競争力が高まる。	○　生徒数・男女比率に応じた適正な便器数等を備えたトイレや、プライバシーや利便性に配慮した男女別の更衣室を整備するなど、共学化に対応した施設環境の改善を実施したことで、男女問わずすべての生徒が、快適かつ安心して学校生活を送れる環境を確保し、学校としての魅力を高めたことが、高い出願倍率の維持に繋がっている。 R6：普通科 1.28、国際探究科・理数探究科 1.41 R7：普通科 1.38、国際探究科・理数探究科 1.51 R8：普通科 1.61、国際探究科・理数探究科 1.35
上記以外の効果の発現状況	
特になし	

4　環境への影響

計画評価の内容	実際の状況
○　現在地での建替えであり、基本的に土地の形状変更を伴うものではないことから、周辺環境に新たな影響を与える可能性は低いと考えられるが、事業実施に当たっては、宮城県環境基本計画及び宮城県環境保全率先実行計画に則り、周辺環境、環境負荷の低減に配慮した基本設計の実施及び施工を行うものとし、建設や解体の際にも周辺環境に配慮した工法等により行う。	○　新校舎の整備に当たっては、北側隣地への日影の影響に配慮した配置計画とした。また、「杜の都の環境をつくる条例」に適合するよう敷地内の緑化を行い、特に、接道面の緑化により、周辺環境の向上に配慮した。 ○　環境負荷の低減に向け、南側普通教室の外部に大庇を設けて屋外からの熱負荷を軽減するとともに、断熱性能を高めた仕様とし、屋外に面するガラスにはペアガラスを採用した。 ○　工事の実施に当たっては、騒音の低減及び粉じんの飛散防止のため、工事箇所の外部に防音パネルを設置した。また、騒音計による監視システムを導入し、基準値を超過した際には、パ

	トライトの作動及び現場責任者への連絡が行われる仕組みとした。

5　リスク対応

計画評価の内容	実際の状況
【災害に関するリスク】 ○　新耐震基準により建築されることから、地震災害に対する耐震性能が確保される。供用開始までの期間は、既存校舎または仮設校舎の維持・保全に万全を期すとともに、災害時に備えた避難訓練を継続して実施するなど、生徒・教職員の意識を高め、対応していく。	○　新設校舎は、新耐震基準に基づき設計・整備しており、地震に対する必要な耐震性能を確保している。 供用開始までの間は、改築の対象外である既存校舎及び仮設校舎について必要な維持・保全を行い、安全な教育環境の確保に努めた。また、学校では、地震等の発生を想定した避難訓練を継続して実施し、生徒・教職員の防災意識の向上及び災害発生時の対応力の強化に努めている。

6　事 業 費

計画評価の内容		実際の状況	
【建設費】		【建設費】	
調査費	15 百万円	調査費	6 百万円
設計費	200 百万円	設計費	181 百万円
工事費（監理費を含む）	7,531 百万円	工事費（監理費を含む）	6,854 百万円
合　計	7,746 百万円	合　計	7,041 百万円
【維持管理費】（40 年間を想定）		【維持管理費】（40 年間を想定）	
人的経費	524 百万円	人的経費	467 百万円
修繕･補修関係経費	1,391 百万円	修繕・補修関係経費	2,540 百万円
運営・管理経費	1,770 百万円	運営・管理経費	2,061 百万円
合　計	3,685 百万円	合　計	5,068 百万円
		【建設費】 入札差金が生じたことに加え、設計・施工の進捗に応じて現場状況等を精査した結果、計画評価時の事業費よりも減額することができた。 【維持管理費】 昨今の労務費や物価の高騰を踏まえ、維持管理計画を見直したため、計画評価時の維持管理費よりも増額となった。	

7　事業実施の効果を高めるための改善措置の必要性

必要に応じて学校と協議を行いながら対策を講じていく。

8　今後の同種事業の計画、実施及び評価方法に反映させるべき事項

特になし